



# 酒匂の清流

令和3年10月15日(金)発行

校長 津田 将美

## 雨ニモ マケズ…コロナ禍の林間学校

登校指導に出かけようとする、5年生が1名、すでに校門の横に立っていました。

「おはよう。早いね。今日は林間学校だいじょうぶそうだね。」

「うん！でも、まだみんな来てないんだ。」

時計を見ると、集合時刻まであと30分以上あります。

「まだ、集合時刻まで時間あるから、のんびり待ってな。」

「は～い。」

2年続きの日帰りの林間学校となりました。しかし、5年生はそんな制限にも負けず、たくましく主体的に準備を進めてくることができました。そのような準備の過程が心の中に希望の光を大きくしていったのでしょう。当日の朝は、いても立ってもいられずにいつも以上に早く登校してしまっただけです。

そんな会話をしているうちに、遠くにやはり早起きの5年生の姿が見えてきました。

「あっ、来た！！お～い！！！」

その子はうれしそうに、そして元気いっぱい友達に手をふりました。

夕方の4時前に、ふれあいの村に着くと、活動も最後のひとつを残すのみで、子どもたちは先生からの諸注意を聞いている最中でした。みんな疲れを感じさせず、生き生きとしていて、次の活動への期待が広がっているようでした。

心配された雨はわずかに降ったようですが、そんな雨に負ける5年生ではありません。予定された活動はすべて行うことができました。

活動の最後に行われたキャンプファイヤーだけは、キャンドルファイヤーに変更になりましたが、普段と違った雰囲気の中で、元気いっぱい楽しむ子どもたちの姿を見て、いい一日が過ごせたのだと思いました。

ファイヤーの最後に実行委員の子が、こんな投げかけをしました。

「目を閉じて、虫の声や自然の息吹を感じましょう。そして、今日一日の自分の成長や友達とのふれあいをふり返りましょう。」

活気あふれる活動の後に訪れた静寂、目を閉じる子どもたち。

コロナ禍の中でも、協力して主体的に計画してきた林間学校。

宿泊のできなかったくやしさを、マスクをつけての活動。

それでも前を向いて進んできた道のり、友達の笑顔、心地よい疲労感。

そんな子どもたちの思いと共に、一日が終わろうとしていました。これからは、最高学年への道のりが続きます。たくましく成長して欲しいです。



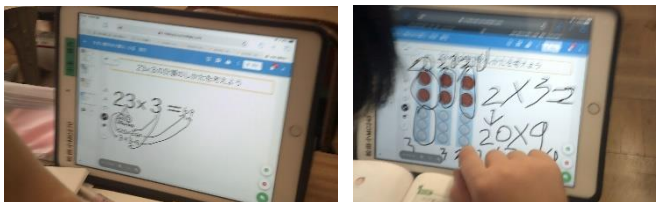
## ICTと学びづくり

10月8日（金）に、校内授業研究会が開かれました。今年度も昨年度に引き続き、「算数」の学習を中心に「自ら考え、わかる喜びを感じられる授業の創造」というテーマで研究を行っています。また、今年度より GIGA スクール構想も踏まえ、ICT 機器の効果的な活用方法についても探っていくことになっています。

この日の授業は、3年生の「かけ算」の学習でした。子どもたちは、タブレットを使用して、自分の考えをまとめていました。



ICT を使用することが、目的ではありません。今回の授業のような活用方法を検討し、子どもたちの学びを深める手段として、どのような使い方が効果的なのかを、今後も探っていきたいと思います。



↑ お金の図、数カード等を活用して考える様子

## プログラミング学習

5、6年生が行っているプログラミング学習が山場を迎えています。特に6年生が進めているプロセッシングの学習は、「if」や「for」などの英単語や数式を多く入力するのでなかなか苦戦している場面も見受けられました。しかし、今年度から授業を進めている学級担任が、子どもたちの実態を見ながら丁寧に授業準備を行っているおかげで、子どもたちもだいぶ慣れてきたようです。講師の方からは、

- 今年から担任が講師を務めるようになったが、見事な授業進行で感服した。担任のクラス掌握にはさすが瞠目すべきものがある。
- 担任が講師を務めるようになって、クラスに集中力が出てきた。やはり教える専門家というのは大したものだと思う。(まっだっちHPより)と、高評価をいただいています。また子どもたちからも

- 「もし (if)」が使えるようになって、その丸を色がぬれておもしろかったです。
- circle(a+25,50...の、「+25」の部分が、少し難しくて考えたけど、分かったから達成感があった。
- 最後の円のやつで「width」と打てばスケッチのはじまでできるのがおもしろかったです。こんな便利な方法があったんだなあ～と思いました。(同HPより)

など、前向きな声が聞かれ始めています。日常の学習の中でも、プログラミング的思考が生かされる場面を大切にしていきたいと思います。

## 台風一過

台風一過の10月1日、職員玄関を出ると、東の空に見事な虹がかかっていました。ちょうど緊急事態宣言が解除された日と重なり、新しいスタートを感じさせる架け橋のように感じました。

引き続き、感染症対策には万全を期しながら、教育活動を少しずつ通常に近づけていきたいです。今回の学校便りでも紹介したように、限られた環境の中でも子どもたちは、たくましく明るく学び続けてくれています。そのことが、私たち職員の励みであり、支えにもなっています。

「早く笑顔で楽しく会話しながら、給食を食べる姿が見たい」

そんな願いを心の隅に押しやりながら、前に進んでいきます。